

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製造業	木材・木製品	製材業	原木は順調な出材量であり、相場も若干の弱含みながら何とか横ばいを維持している。一方、製品は、外材の先物物価の下落と在庫の値切り処分攻勢の影響で、市場全体で先安感が強まり、加えて持ち家の新設着工戸数も前年を1割以上も下回るなど、荷動きの冷え込み、停滞が続いている。
	木材・木製品	製材業 (プレカット)	2月の加工実績 (量) は前年比101%で前年並みであったが、加工売上は非住宅の売上もあり、前年比20%ほどの伸びとなった。住宅については減少傾向が続いているが、ネタ切れを心配していた非住宅については来年度の引き合いが入り始め、少しほっとしている。できるだけ多く受注することで住宅の落ち込みをカバーしたいと考えている。
	木材・木製品	木製品製造業	物価や燃料費の高騰、原材料費の高騰により、依然として厳しい状態である。
	印刷	印刷・同関連業	原材料費の上昇は、なかなか止まらない状況である。それに給与ベースの上昇が重なり、経営を圧迫している。需要については、統一選挙等による上昇に期待をしているが、思うようにはならない現状である。
	印刷	印刷・同関連業	売上は全体的に微増傾向だが、原材料費値上げ分を価格転嫁できた分が上がっただけで、それも完全に転嫁できたとはいいがたく、実質減収といった感じである。そのような中で、4月から更なる原材料値上げの要請がきており、一層の厳しさが予想される。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	2月末時点で昨年度出荷数量比105%、3月には昨年度総出荷数量を超えそうである。セメント・骨材・燃料電気代が上がっており、昨年に続く値上げで対応せざるを得ない。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	昨年実績があまりにも悪く、単月の状況が多少良くとも大きな変化には感じられない。2月は昨年同月比では160%となるが、組合員は全社赤字となる。期末までは残り1カ月であるが組合創設以来最低の出荷となった昨年より悪くなりそうである。累計でも70.4%と悪い。今期は期末までに今の状況が改善される可能性は低い。更にセメント、碎石、砂などの原材料の値上げもあり、材料費高騰と出荷減少の二重苦となる。
小売業	小売業	たばこ販売業	街のたばこ店は廃業に追い込まれ年々減少しているが、何とか踏ん張っているところは丁寧な対面販売を心掛けているように思える。コンビニ店では多くの銘柄を取り揃えているが、たばこを買うにはサンプルに付いた番号を伝えなければならず、銘柄を言っても「番号をお願いします」と言われれば、事前に把握していなかった場合は自分で番号を確認しなければならず、たばこ1個を買うのたいへん面倒である。街のたばこ店では銘柄を伝えればすぐに自分の欲しいものを買えるし、常連ともなれば顔を見ただけで求める銘柄を渡してもらえる。全国的にコロナも減少傾向となり、街に少しずつ活気が見られるようになったが、街のたばこ店もこの流れに乗り、たばこ店独自のサービス提供で活気を取り戻して欲しいと願うばかりである。
	小売業	小売商業	当月は、例年最も消費動向の悪い月ではあるが、前年比集客数は微増、売上は変わらず、一昨年の県独自の緊急事態宣言により集客数が20%程度落込んだ状況から今年も昨年に引き続き脱皮出来ず、下げ止まったままで推移している。ロシアのウクライナ侵攻から1年が経過し、懸念された諸物価の高騰が現実となり、消費者の購買動向に微妙な影響を与え、益々厳しい状況に直面しつつある。
	小売業	石油販売業	原油価格の高止まりと為替の円安は続いている。国の燃料油価格激変緩和措置により、販売価格は抑えられているが、需要は停滞したままである。また卒業シーズンで大学生のアルバイトの雇用が厳しい状況となっており、人手不足に直面している事業所もでてきている。
	小売業	LPGガス小売販売業	2月CP価格(サウジ通告価格)は790 ^{円/トン} (前月比+200 ^{円/トン})。1月MB価格(米国産平均価格)+(米国物流経費84 ^{円/トン})は522 ^{円/トン} (前月比+85 ^{円/トン})。対顧客電信売相場(1月平均)は131.35 ^{円/ドル} (前月比△4.74 ^{円/ドル})。中国がゼロコロナ政策を撤廃し経済回復や春節大移動でエネルギー需要が増加するとの期待感、また、極東地域における寒波到来で暖房需要が増加したため、LPG価格は大幅な上昇となった。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	商店街	宮崎市	前月に続き、客数減少が続いており、販売上の減少が続いている。
	商店街	都城市	コロナもだいぶ落ち着き、街に人が出るようになった。各種イベントも活発に開催され、どこも多くの人でにぎわうようになったが、昨年より続いている原材料価格の高騰が止まらない状況である。各店舗も悩みに悩んで価格転嫁をしても、また更に原材料価格が値上げとなり、負の連鎖が止まらない状況になっている。せっかく売上げが回復しつつあるのに利益に繋がらない状態が続いている。
	サービス業	観光業	閑散期にツアー旅行の増加で嬉しい悲鳴の2月期となった。しかし、観光地の土産品店や飲食店が閉鎖（閉店）していたり、今まであったものがなくなっていたり、コロナの痛々しい現状を目の当たりにすることも多かった。
	サービス業	自動車整備業	今月も前年比減であった。忙しいと感じる日が少なかったが、予測よりは減少幅は少なかった。
	サービス業	自動車車体整備業	材料価格の値上げが続いている。
	サービス業	不動産業	仕入価格の上昇で工事価格の上昇が懸念される。
	建設業	管工事業	宮崎市と建設工事等関連団体との「令和5年度 建設工事等の発注における条件付一般競争入札や指名競争入札の取扱い」についての意見交換会が開催され、見直し案が示される。資材費、外注費等の上昇に加え、一般管販費も上昇傾向で、利益率の低下幅が徐々に拡大している。
	運輸業	軽貨物運送業	新型コロナウイルス感染症の影響は様々な分野にまで影響を及ぼしており、景気回復の兆しが見えないのが現状である。特に2月度は年間を通して月間売り上げが低調であるため、余計に冷え切ったように思えた。しかし来月の異動シーズンを前に、インターネットによる問い合わせはたくさん来ており、この時期にある程度引越シーズンの計画が立てられる。燃料関係は高止まりのまま推移し、組合員の運航経費の増大が問題である。
	運輸業	貨物運送業	原油価格は、欧州の中央銀行による長期にわたる金融引締め策が景気回復の妨げになるとの懸念により、欧州を中心としたエネルギー需要の先細りに対する警戒感が強まったことや、ロシア副首相が欧米諸国の制裁にもかかわらず、ロシア国内の石油生産及び輸出は極めて安定していると伝えたことにより小幅に下落したが、国内燃料価格は高止まりでほぼ横ばいという状況が続いており、組合員の経営は非常に厳しいものとなっている。